



社長年頭挨拶

新年あけましておめでとうございます。これから2022年をスタートするにあたり、一言挨拶申し上げます。

今年の正月も昨年と同様に、年末からの寒波で、低気温と日本海側の降雪と冬らしく、一方でコロナの状況としては、オミクロン株の感染者数増が懸念される中、ワクチン他対策の一定の抑制効果などで帰省や初詣など前年よりも人出が多かったようです。皆さんそれぞれに、良いお休みを過ごされたことと思います。

2021年を振り返りますと、『回復・高騰』の年であったのかなと思います。まずは新型コロナウイルスからの回復ということですが、東京オリンピック期間後である8月中旬の第5波をピークとして、新規感染者数が減少し11月以降は全国でも100名以下の水準となり経済の回復の期待も高まりました。鉄鋼業界も、自動車・建機・産業機械などの回復に後押しされる形で粗鋼生産量が年産で9500万トンレベルまで戻ってきており、22年も同水準の粗鋼生産が見込まれています。そして、高騰については、鉄鉱石・石炭・合金元素含めた原材料価格の上昇に伴う素材価格の高騰、加えて電気・燃料価格、副資材などの価格も上昇し、収益を確保するには今まで以上に努力が必要な状況になっています。

さて、わが社の2021年の事業環境を振り返りますと、前半は新型コロナウイルスからの回復に伴って自動車の販売数量が戻り出し、19年度に近い水準の生産となりました。しかし、8月中旬以降では、東南アジアでのコロナ再拡大による自動車部品の供給不足、引き続きの半導体の慢性的な不足が足を引っ張ることで自動車生産が計画通りに進んでいない状況となっています。(わが社の販売数量12月速報値、14,682t。1月：13,730t 見込み。)

これからの環境を考えますと、改善を期待したい所ではありますが、不透明な状況と言わざるを得ないと思います。感染力の強いオミクロン株も急増しており、昨日(1月5日)時点では、全国新規感染者数が2600名を超え、愛知県でも73名と、昨年10月並みの水準となり、第6波の始まりとして影響が懸念されます。又、回復基調の中国について政治的不安、世界的な供給網混乱・インフレの長期化など、決して安心できる状況ではないと思われます。コロナ感染につきましては、引き続き皆さん・ご家族も含めまして、感染しない・拡がらせない意識の下対応していただく様、宜しくお願いします。

そんな中では、2022年の基本方針は、CC21(Change & Challenge to 2021)の3年目・最後の年となりますが、以下3点、基本的なところは変わらず、引き続き『より強い会社』となるための挑戦の年にしていきたいと思っております。

① モノづくりの競争力向上

原点である【安全に、良いものを安く】は引き続きしっかりと継続したうえで、更に強い宮崎精鋼となる取り組みを実行していきましょう。モノづくりの原点に立ち返って標準作業・設備点検を守れば安全に良品が確実にできるのか、再点検してもらいたいと思っております。又、OJTソリューションズの取り組みも知多工場全体で活動しておりましたが、今年からは全社へ展開して宮崎精鋼オリジナルのモノづくり力へ発展させていきたいと思っております。

また、宮崎メキシコも1月3日から稼働がスタートしており、モノづくり力の支援についてリモート指導を継続していますが、全体のレベルアップにつながるよう、取り組みをお願いします。



年頭挨拶の様子

